

# 黒野寮概要 2026年版



岐阜大学の学生寮を「黒野寮」といいます。入居定員は男子 200 人、女子 75 人です。黒野寮は大学のキャンパス内にあります。主に遠方から入学した学部生を対象とし、その修学を容易にすることを目的としています。

また、学生寮は、学生が日常生活を営む場における団体生活や交流を通じて社会性を身につけ、人格形成を行う「教育」の場としても位置付けられます。

寮の基本構造は、個室（9㎡）5 部屋がビングルーム 1 部屋を共有し、このユニットが 1 フロアに 2 つ（女子は 3 つ）あり、キッチン、洗面、トイレを共有しています。これを「ブロック」と呼び共同生活の基本単位になります。

ここに居住する学生は「寮自治会」を作り、自分たちでより良い生活を行うための自主活動を行っています。

昭和 55 年及び 59 年竣工の建物は外壁塗装以外の大幅な改修工事はしていませんが、小さな改修等をしながら現在の住居環境を作っています。個室があるために最低限のプライバシーは確保できますが、他はブロックごとや全体で共同使用しています。なお、平日昼間は管理人がおりますが、風呂の準備・清掃、ブロック共有部分の掃除、ゴミ出し等は当番制で寮生自身が行っています。また、ブロックごとの会議も開催し、さらに寮自治会の役員も務めていただき、寮独自の行事もあります。

また、入寮と同時に「黒野寮光熱水料等支払会」及び「寮自治会」に自動的に加入し、退寮するまではその構成員（会員）となり、それぞれの規約に従い生活していただくことになります。

寮費・共益費・光熱水料が月々 13,500 円～生活できるのも大きな利点です。ただし寮には食堂がないので、多くが自炊や、学生食堂（大学生協の食堂）を利用しています。なお、キャンパス内にはコンビニがあり、7 時から 22 時まで営業しています。

## ■所在地等

所在地：〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1 (構内北東奥) 建物面積：5,043㎡  
構造：R1 (管理棟)、R5 (居住棟) 開寮：1981 (昭和56) 年10月1日

## ■入寮許可対象・許可基準

対象：学部生正規生 (原則)

基準：以下のいずれかに該当する必要があります。

- ・大学の半径80km以上の地域に在住すること
- ・通学に片道2時間以上を要すること
- ・通学定期 (1か月) の額が2万円を超えること
- ・身体障害のため通学に支障があること
- ・その他特別な事情があること

在寮許可期間：新入生は所属する学部等の修業年限

新入生以外の学生は修業年限までの残存期間

## ■経費

入寮時に預託金として20,000円を振込

毎月の寄送料等は、3ヶ月分を預金口座の自動振替 (自動引落) により納付

寄送料	4,300円	
共益費	2,200円	居室内でのインターネット接続料も含む。
光熱水料	7,000円	共用分は入寮者による応分の負担。個人使用分は使用量に応じて負担。不足が生じた場合は預託金から支出。預託金をもってしても超過した場合は、追加で預託金を納付。預託金は、退寮時に退寮時諸経費と併せて精算し、残額を返金。
月額合計	13,500円	月の途中で入寮・退寮する場合でも一月分納付 (日割計算なし)。

(令和8年1月現在)

※その他、入寮期間中は火災保険に個人でご加入いただきます (令和7年度4月より)。

## ■施設等

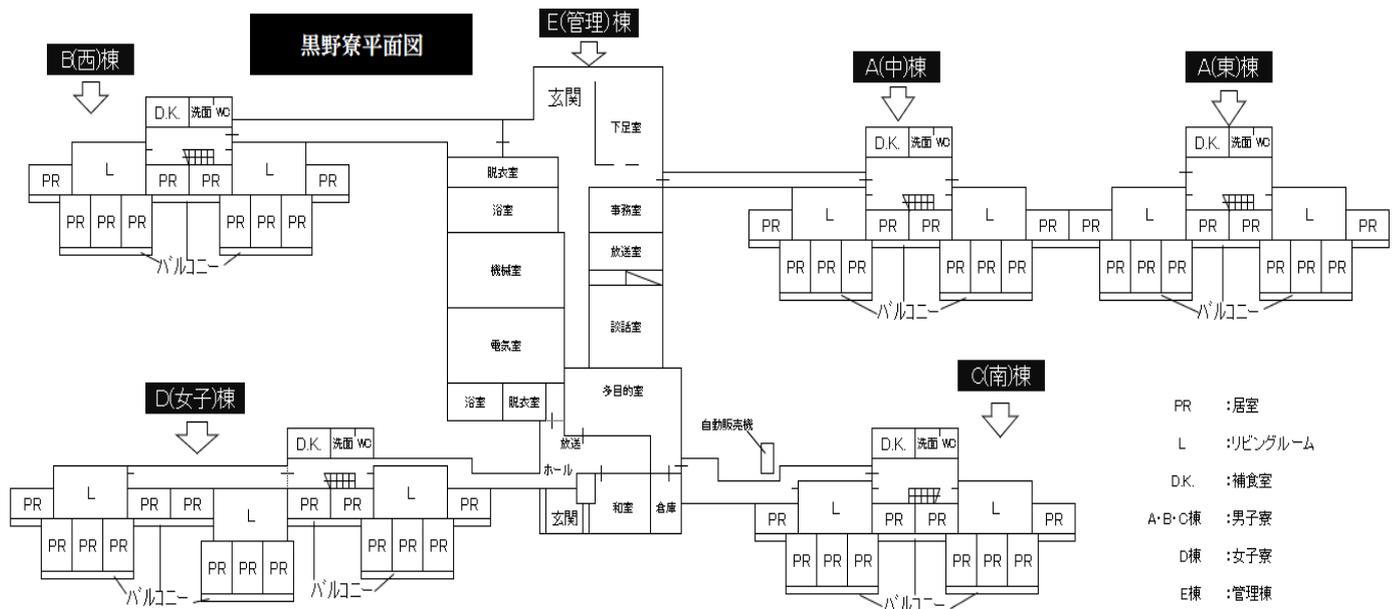
	A棟 (男)	B棟 (男)	C棟 (男)	D棟 (女)	E棟 (管理)	計
延面積	1,660㎡	830㎡	830㎡	1,255㎡	468㎡	5,043㎡
建面積	332㎡	166㎡	166㎡	251㎡	468㎡	1,383㎡
建設年度	S55	S55	S58	S58	S55, 58	-
定員	100人	50人	50人	75人	-	275人

## ■設備

室名	室数	設備	室名	室数	設備
居室	275	全室洋式の個室 W2.5m*D3.6m*H2.5m	談話室・多目的室	3	黒板、時計、ガス暖房機、卓球台
補食室	25	流し台、ガスコンロ、給湯器、冷蔵庫、電子レンジ	玄関・ホール	2	掲示板、傘立、郵便受け、防犯カメラ
リビングルーム	55	(18㎡) エアコン	放送室	1	放送設備
洗面洗濯・便所	25	洗面台、洗濯機、鏡他	自販機コーナー	1	清涼飲料水、カップ麺、パン、お菓子
浴室	2	脱衣棚、ヘルメター			

その他：インターネット (無線LAN) は居室において、利用可能です。

## ■ 配置図



## ■ 黒野寮とは

黒野寮は、本学唯一の学生寮として大学の統合移転に伴い 1981（昭和 56）年 10 月に開寮（一部）した新規格寮です。

寮の建物は大学構内（北東）の一角にあり、管理棟も含め 5 棟に分かれています。このうち 3 棟が男子寮、1 棟が女子寮となっています。建物の形は、管理棟を中心に左右に翼を広げたようになっており、管理棟と各棟が渡り廊下で結ばれています。

本学は 1984（昭和 59）年に医学部を除く各学部等が現在の柳戸地区に統合移転しましたが、これに伴って、各地区に分散していた学生寮を統合して現在地に建設したのが本寮です。

ちなみに、この寮名は大学が統合移転した柳戸地区の周辺地域が黒野であることから、この名称が付けられました。

## ■ 黒野寮の特徴

居室はすべて個室になっているため、適度にプライバシーが保たれる反面、寮生個人が自分の殻に閉じこもってしまうことも考えられるので、数室の居室ごとに共有のリビングルーム等を設けることにより、寮のメリットである日常生活を営む場における団体生活を通じて社会性を身につけ、学生相互の人的交流による人格形成を行うという面が薄れないように配慮されています。1 室の共有リビングルームを 5 つの居室が囲むように設計したいわゆるクラスター方式を採用したことがこの黒野寮の大きな特徴です。



## ■本学学生寮の沿革

1924年4月	 <p>岐阜高等農林学校開校と同時に「凜真寮」が設置された。この「凜真寮」の名称は、東海林初代校長が第1回入学式の式辞の中で、同校教育のモットーとして示された「凜乎たれ」「真摯たれ」の2語「凜乎真摯」から命名されたものです。(定員 80人)</p>
1932年10月	<p>岐阜高等農林学校実務科生のための寄宿舎として実験農場の一角に「瑞天寮」が設置された。(定員 25人)</p> 
1934年	<p>岐阜師範学校が長良に移転したのに伴い岐阜市長良六本松に「望峰寮」が設置された。(定員 115人)</p>   
1949年5月	<p>岐阜大学の設置に伴い各寮は農学部及び学芸学部（現在の教育学部）へ移管された。</p>
1959年4月	<p>那加門前町敷地が手狭となったため、「凜真寮」は体育施設と共に那加東亜町に移転改築され、学生部管理となった。(定員 128人)</p>
1966年4月	<p>「玲朋寮」が長良竜東町に移転改築された。(定員 72人)</p> 
1981年1月	<p>「黒野寮」第1期工事が竣工した。</p>
1981年10月	<p>「凜真寮」を廃止し、農学部学生のための移行措置として、統合のために空いた工学部電子工学科棟を改修して仮宿舎とした。(定員 40人)</p>
1981年10月	<p>「黒野寮」が開寮した。(定員 150人)</p>
1982年10月	<p>「瑞天寮」を廃止（仮宿舎も同時に廃止）した。</p>
1984年4月	<p>「黒野寮」第2工事が竣工した。</p>
1984年3月	<p>「望峰寮」・「玲朋寮」を廃止した。</p>
1984年4月	<p>「黒野寮」の入学定員を男子 200人女子 75人とした。</p> 

(写真は「岐阜大学の五十年」から転用)

岐阜大学学務部学生支援課  
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1  
Tel (058)293-2161, 3198